

## はじめに

このたびは、BladeSymphony BS500装置をお買い上げいただき誠にありがとうございます。  
本書では、Webコンソールへの接続方法、マニュアルおよび添付品について説明しています。  
本書の記載内容は主にサーバシャーシ内蔵フラッシュメモリに格納されている「製品マニュアル」  
より抜粋しております。製品マニュアルと合わせてお読みください。

## 登録商標・商標

Microsoft、Windows、Windows Server、Hyper-V は米国Microsoft Corporationの米国および  
その他の国における登録商標または商標です。  
Intel、インテル、XeonはIntel Corporationの登録商標および商標です。  
Linuxは、Linus Torvaldsの米国およびその他の国における登録商標または商標です。  
Red Hatは、米国およびその他の国におけるRed Hat, Inc.の登録商標または商標です。  
ORACLE、Java は、Oracle Corporation およびその子会社、関連会社の米国およびその他の  
国における登録商標または商標です。  
その他、本マニュアル中の製品名および会社名は、各社の商標または登録商標です。

## 版權

このマニュアルの内容はすべて著作権によって保護されています。このマニュアルの内容の  
一部または全部を、無断で転載することは禁じられています。  
Copyright© Hitachi, Ltd. 2012, 2019, All rights reserved.

## 『SystemInstaller』の使用許諾契約書について

『SystemInstaller』には、使用許諾契約書への同意が必要なソフトウェアが含まれています。  
『SystemInstaller』の「LICENSE」ディレクトリ下にある使用許諾契約書を必ずお読みのうえ、  
ご使用条件をご理解ください。

また、『SystemInstaller』以外の製品添付媒体にも使用許諾契約書への同意が必要な  
ソフトウェアが含まれています。使用許諾契約書を必ずお読みのうえ、ご使用条件をご理解  
ください。インストールをもって、使用許諾契約書にご承諾いただき、ソフトウェアの使用許諾契  
約が成立したものとさせていただきます。ご承諾いただけないソフトウェアはインストールしな  
いでください。

## システム装置の概要

サーバシャーシにサーバブレードや各種モジュールを搭載することで、ハードウェアを自由に  
追加でき、その構成変更や運用管理をミドルウェアで一元的に行える装置になります。

## 補足

システム装置は、次の要素で構成しています。

- **サーバシャーシ**  
サーバブレードやマネジメントモジュール、各種モジュールをシステム装置として構成  
するための筐体です。
- **サーバブレード**  
サーバブレードは、プロセッサ、メモリ、HDDなどをシステム搭載するためのモジュール  
です。
- **マネジメントモジュール**  
マネジメントモジュールは、サーバブレードなどの電源制御、状態監視などの機能を  
提供するモジュールです。
- **各種モジュール**  
スイッチモジュール、電源モジュール、ファンモジュールがあります。

## 安全にお使いいただくために

## 安全に関する共通的な注意について

次に述べられている安全上の説明をよく読み、十分理解してください。

- 操作は、このマニュアル内の指示、手順に従って行ってください。
  - 本製品やマニュアルに表示されている注意事項は必ず守ってください。
  - 本製品に搭載または接続するオプションなど、ほかの製品に添付されているマニュアル  
も参照し、記載されている注意事項を必ず守ってください。
- これを怠ると、けが、火災や装置の破損を引き起こすおそれがあります。

## 操作や動作は

マニュアルに記載されている以外の操作や動作は行わないでください。

本製品について何か問題がある場合は、電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いたあと、  
お買い求め先にご連絡いただくか保守員をお呼びください。

## 自分自身でもご注意を

- 本製品やマニュアルに表示されている注意事項は、十分検討されたものです。  
それでも、予測を超えた事態が起こることが考えられます。操作に当たっては、指示に  
従うだけでなく、常に自分自身でも注意するようにしてください。
- サーバシャーシ内蔵フラッシュメモリに格納されている「スタートアップ ガイド」内の  
「安全にお使いいただくために」を必ずお読みください。

## 一般的な安全上の注意事項

## ⚠️⚠️⚠️⚠️ 電源ケーブルの扱い

電源ケーブルは必ず付属のものを使用し、次のことに注意して取り扱ってください。  
取り扱いを誤ると、電源コードの銅線が露出し、ショートや一部断線で過熱して、  
感電や火災の原因になります。

- 物を載せない
- 熱器具のそばで使用しない
- 加熱しない
- 束ねない
- コードに傷がついた状態で使用しない
- 紫外線や強い可視光線を連続して当てない
- 高温環境で使用しない
- 定格以上で使用しない
- ほかの装置で使用しない
- 電源プラグを濡れた手で触らない  
なお、電源プラグはすぐに抜けるよう、  
コンセントの周りには物を置かないでください。

## ⚠️⚠️⚠️ 電源プラグの接触不良やトラッキング

電源プラグは次のようにしないと、トラッキングの発生や接触不良で過熱し、火災の  
原因となります。

- 電源プラグは根元までしっかり差し込んでください。
- 電源プラグはほこりや水滴が付着していないことを確認し、差し込んでください。  
付着している場合は乾いた布などで拭き取ってから差し込んでください。

## ⚠️⚠️⚠️⚠️ 電源コンセントの扱い

■ 電源コンセントは接地型2極差し込みコンセントをご使用ください。その他のコンセントを  
使用すると感電や火災の原因になります。  
■ コンセントの接地極は、感電防止のために、アース線を専門の電気技術者が施工した  
アース端子に接続してください。接続しないと、万一電源の故障時などに感電するおそれ  
があります。

## ⚠️⚠️⚠️ 電源プラグの抜き差し

電源プラグをコンセントに差し込むとき、または抜くときは必ず電源プラグを持って行って  
ください。電源コードを引っ張るとコードの一部が断線してその部分が過熱し、火災の原因に  
なります。

## ⚠️⚠️⚠️ 電源モジュールについて

電源モジュールは、高電圧部分が内部にあるためカバーを開けないでください。感電や装置の  
故障の原因になります。

## ⚠️⚠️⚠️ 電源スロットカバーの取り付け

電源モジュールの取り外し時、手や工具を内部に差し入れないでください。また、取り外し後は  
電源スロットカバーを取り付けてください。電源スロット内部には導体が露出した部分があり、  
万一手や工具などで触れると感電や装置の故障の原因になります。

## ⚠️⚠️⚠️⚠️ 異常な熱さ、煙、異常音、異臭

万一異常が発生した場合は、電源を切り、装置のすべて(最大4本)の電源プラグを  
コンセントから抜いてください。

## ⚠️⚠️⚠️⚠️ 修理・改造・分解

本書の指示にしたがって行うオプションなどの増設作業を除いては、自分で修理や改造・  
分解をしないでください。感電や火災、やけどの原因になります。  
特に電源モジュール内部は高電圧部が数多くあり、万一さわると危険です。

## ⚠️⚠️⚠️⚠️ カバー・ブラケットの取り外し

カバー・ブラケットの取り外しは行わないでください。感電ややけど、または装置の故障の  
原因となります。

## ⚠️⚠️⚠️ 電源モジュールのカバーの高温について

電源モジュールは動作時カバーやハンドルが熱くなっています。障害が発生したモジュールを  
交換する場合などはご注意ください。やけどをすおそれがあります。

## ⚠️⚠️⚠️ 10GBASE-R トランシーバの高温について

1/10Gbps LANスイッチモジュールの10GBASE-Rトランシーバは、動作時に熱くなっています。  
トランシーバの取り外しは、マネジメントモジュールから10Gbps LANスイッチモジュールの  
電源を停止してから約5分以上、時間をおいてから行ってください。  
やけどの原因になります。

## ⚠️ ⚠️ 装置内部品の追加・交換

電源を切った直後は、カバーや内部の部品が熱くなっています。本マニュアルで指示のない限り装置内部品の追加・交換は、電源を切った直後約30分、時間をおいてから行ってください。やけどの原因になります。

## ⚠️ ⚠️ レーザー光について

- 本製品に搭載されているレーザーは、クラス1 レーザー製品です。レーザー光を直視しないようにしてください。光学器械を用いてレーザー光を見ないようにしてください。
- レーザーモジュールのカバーを外すと、レーザー光が発射されています。使用していないボードのカバーは外さないようにしてください。

## 🚫 製品の取り扱い

- 製品は固定したラックに搭載してください。製品に寄りかかったり、上に乗ったりしないでください。また、床や壁などが弱い場所には設置しないでください。
- 過度な振動は与えないでください。落ちたり倒れたり、故障の原因となります。

## ⚠️ 🚫 ラック搭載について

- システム装置をラックキャビネットに取り付けたり取り外したりする場合は、必ず2人以上で作業を行い、無理をせず器具などを使用してください。また、ラックキャビネットの3IU以上にシステム装置を取り付けたり取り付けられている場合は、作業は行わず、保守員にお任せください。取り付け不備によりシステム装置が落下しけがをしったり装置が故障するおそれがあります。
- ラックキャビネットから装置を引き出して作業を行う場合、必ずラックキャビネットにスタビライザーを取り付けてください。無理な力がかかるとラックキャビネットが転倒し、けがや故障の原因になります。取り付けられていない場合は保守員をお呼びください。

## ⚠️ 🚫 ラックキャビネット搭載時の取り扱い

ラックキャビネット搭載時、装置上面の空きエリアを棚または作業空間として使用しないでください。装置上面の空きエリアに重量物を置くと、落下によるけがの原因となります。

## ⚠️ 金属など端面への接触

装置の移動、部品の追加などで金属やプラスチックなどの端面に触れる場合は、注意して触れてください。または、綿手袋を着用してください。けがをすることがあります。

## ⚠️ 🚫 不適切な電池

不正な種類の電池と交換すると爆発の危険があります。使用済みの電池は指示にしたがって廃棄してください。

## ⚠️ 🚫 電池の取り扱い

電池の交換は保守員が行います。交換は行わないでください。また、次のことに注意してください。取り扱いを誤ると過熱・破裂・発火などでけがの原因となります。

- 充電しない
- ショートしない
- 分解しない

## ⚠️ 電池の保管

電池を保管する際は、電池端子に接着テープを貼付して絶縁してください。絶縁しないと、端子同士の接触によりショートして、過熱や破裂を引き起こすことがあり、けがや火災につながります。

## 装置の損害を防ぐための注意

### 使用する電源

使用できる電源は、交流100Vもしくは200Vです。それ以外の電圧では使用しないでください。電圧の大きさに従って内部が破損したり過熱・劣化して、故障の原因になります。

## お問い合わせ先

### 機能に関するお問い合わせ、技術的なお問い合わせについて

インストール、セットアップなどの操作手順や設定方法に関するお問い合わせ、また本製品で発生した障害の原因切り分けおよび対策、回避策に関するお問い合わせに対して、有償のサポートサービスをご用意しています。

#### ■ サポートサービスをご利用になる場合

有償サポートサービスをご契約いただいたうえ、送付されるサービス利用ガイドを参照いただき、下記の間合せ受付窓口にお問い合わせください。

日立ソリューションサポートセンター  
フリーダイヤル：サポートサービス契約の締結後、別途ご連絡いたします。  
詳細は担当営業へお問い合わせください。  
受付時間：8:00～19:00(土・日・祝日・年末年始を除く)

#### ■ サポートサービスをご利用にならない場合

販売会社にお問い合わせを承ることが可能な場合がございます。詳細内容につきましては、お買い求め先へご確認ください。

## システム装置が故障したら

#### ■ サポートサービスを契約している場合

契約時にご連絡している間合せ受付窓口へお問い合わせください。  
無償保証期間中であっても、契約時にご連絡している間合せ受付窓口へお問い合わせください。

#### ■ サポートサービスを契約していない場合

販売会社で修理を承ることが可能な場合がございます。詳細内容につきましては、お買い求め先へご確認ください。また、無償保証期間中の修理につきましては、以下の連絡先へお問い合わせください。

日立ソリューションサポートセンター  
フリーダイヤル：0120-366-056  
受付時間：平日8:00～19:00

# 1

## マニュアルおよび添付品について

### 電子マニュアルの参照方法

#### お客様にてご準備いただくもの

お客様にて次の機器をあらかじめご準備ください。

項目	員数	備考
システムコンソール	1台	システム装置のユーザインタフェースとして使用します。 次表<システムコンソールの要件>に記載の条件を満たすPCをご準備ください。
LANケーブル	1本	カテゴリ-5以上の規格に対応したLANケーブルをご準備ください。

#### <システムコンソールの要件>

項目	仕様
CPU	動作クロック2GHz以上
メモリ	512MB以上
表示解像度	1024 x 768以上(1280 x 1024以上を推奨)
ネットワーク	100Base-TX以上
CD-ROM/DVD-ROMドライブ	システムコンソール内蔵のCD/DVDドライブ またはUSB接続のCD/DVDドライブ USB接続のCD/DVDドライブはUSB2.0準拠のドライブを推奨
Flash player	Adobe® Flash® Player version 10.2以降
OS	Microsoft® Windows® Red Hat® Enterprise Linux®
ブラウザ	Internet Explorer 7以降 Firefox 3.0以降
Java software	Oracle® Java Version 6 (Update 29以降) Oracle® Java Version 7 (Update 2以降) Oracle® Java Version 8 (Update 45以降)

### システムコンソールの設定

システムコンソールをシステム装置に接続するためには、ネットワーク設定とブラウザ設定が必要です。

#### ネットワーク設定

システムコンソールのIPアドレスを、192.168.0.2～192.168.0.254のいずれかに設定する必要があります。お使いのネットワーク環境に合わせて、IPアドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイを設定してください。

なお、設定方法については、システムコンソールにインストールされているOSのマニュアルを参照してください。

#### ブラウザ設定

次のようにブラウザを設定してください。

#### ■ ポップアップブロックを無効にしてください。

無効にしないと、予期しない動作をする場合があります。

#### ■ クッキーの使用を有効にしてください。

有効にしないと、マネジメントモジュールのWebコンソールにログインできません。

ブラウザの設定方法については、ブラウザのマニュアルを参照してください。

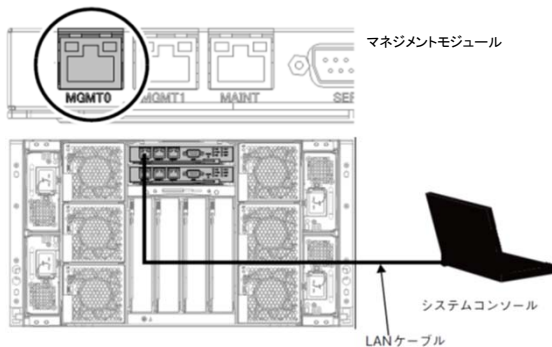
## Webコンソールの接続

システムコンソールから、マネジメントモジュールのWebコンソールに接続します。

## 電子マニュアルの参照方法

電子マニュアルは、サーバシャーシ内蔵のフラッシュメモリに格納されています。システム装置のユーザーズガイドを参照する場合は、次の手順に従って実施してください。

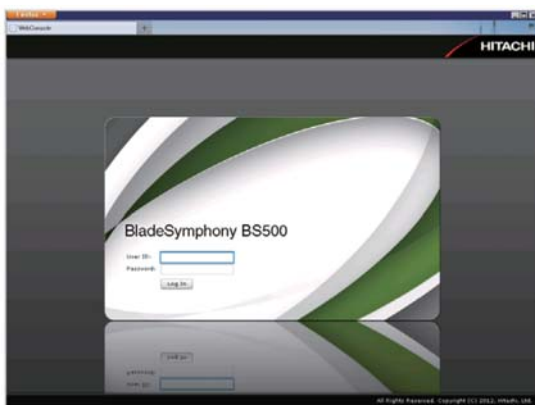
- システム装置背面のマネジメントモジュールMGMT0ポートと、システムコンソールをLANケーブルで接続してください。マネジメントモジュールが2台搭載されている場合は、MSRランプが緑色に点滅している側のマネジメントモジュールに接続してください。



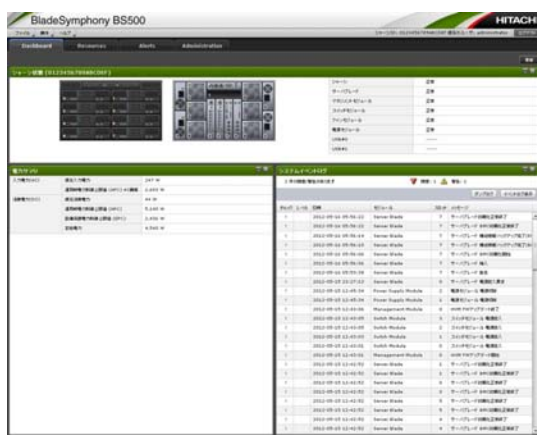
- システムコンソールのブラウザを開き、URL [ <https://192.168.0.1/> ] を入力します。

- 接続に成功すると、次のログイン画面が表示されます。下表に示す値を入力してログインしてください。

項目	工場出荷時の初期値
ユーザID	administrator
パスワード	password



- ログインに成功すると、次の画面が表示されます。



- Webコンソールメニューの [ ヘルプ ] - [ ユーザーズガイド ] をクリックして、参照したいユーザーズガイドを選択してください。



### 補足

- サーバシャーシ内蔵のフラッシュメモリ格納ファイルの一覧は「InternalFlashMemory\_FileList\_JP.pdf」を参照してください。
- 電子マニュアルは、予告無しに更新されることがあります。最新のマニュアルはBladeSymphonyのWebページから入手できます。  
BladeSymphonyのWebページ：  
<http://www.hitachi.co.jp/products/ bladesymphony/>

## 添付品のダウンロード方法

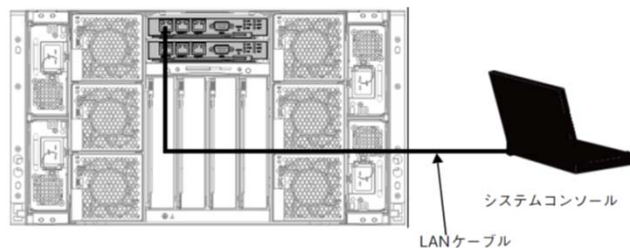
システム装置添付のユーティリティやドキュメントなどは、サーバシャーシ内蔵フラッシュメモリに格納されています。次の手順に従って、サーバシャーシ内蔵フラッシュメモリからダウンロードしてください。

手順は、Windowsのシステムコンソールを使用した例を示します。Linuxのシステムコンソールを使用する場合も、同様に実施してください。

### 制限

お客様がサーバシャーシ内蔵のフラッシュメモリからデータを読み出す場合は、フラッシュメモリ内のデータをバックアップすることをお薦めします。

- システム装置背面のマネジメントモジュールMGMT0ポートと、システムコンソールをLANケーブルで接続してください。マネジメントモジュールが2台搭載されている場合は、MSRランプが緑色に点灯している側のマネジメントモジュールに接続してください。



### 制限

HVMモードで使用する場合は外部LANスイッチが必要です。詳細は『サーバブレードセットアップガイド』を参照してください。

- ホストマシンに対してWindowsのFTPセッションを起動します。Windowsのデスクトップ画面から、スタート→ファイル名を指定して実行を選択する。起動した「ファイル名を指定して実行」画面から、ftp ホストマシン名 を入力して、OKボタンをクリックする。コマンドプロンプト画面が表示します。

項目	初期値
ホストマシン名	192.168.0.1



3. ホストマシンに対して登録ログイン名、登録パスワードを入力します。  
表示したコマンドプロンプト画面より、次に示す値を入力してログインします。

項目	初期値
登録ログイン名	administrator
登録パスワード	password

次に入力例を示します。

```
Connected to 192.168.0.1.
220 (vsFTPd 2.3.4)
User (192.168.0.1:(none)): administrator
331 Please specify the password.
Password:password
230 Login successful.
```

4. 転送元ファイルのあるディレクトリへのディレクトリ変更します。  
転送したいファイルのあるホストマシンのディレクトリへ、ディレクトリを変更します。  
iusbディレクトリに移動します。

```
ftp> cd iusb
250 Directory successfully changed.
```

本ディレクトリ以下に、システム装置添付のファイルが格納されています。  
サーバシャーシ内蔵フラッシュメモリ格納ファイルの一覧を参照してください。

### 補足

サーバシャーシ内蔵のフラッシュメモリ格納ファイルの一覧は、Webコンソールメニューの  
[ヘルプ] - [ユーザーズガイド] - 「InternalFlashMemory\_FileList\_JP.pdf」をクリックして  
ください。

5. ファイル転送モードを指定します。  
ファイル転送モードとしてバイナリを指示します。

```
ftp> type binary
200 Type set to I.
```

6. ローカルマシンのドライブ名、ディレクトリパスを指定します。  
ファイルのダウンロード先であるローカルマシンのドライブ、ディレクトリを指示します。

次に入力例を示します。(ローカルマシンのルートディレクトリ直下)

```
ftp> lcd c:
```

7. ファイル転送します。  
1ファイルを転送します。

```
ftp> get ファイル名
```

複数ファイルを転送します。ワイルドカード指定が可能です。

```
ftp> mget ファイル名
```

8. ダウンロード完了後、FTPクライアントを終了してください。

```
ftp> bye
```

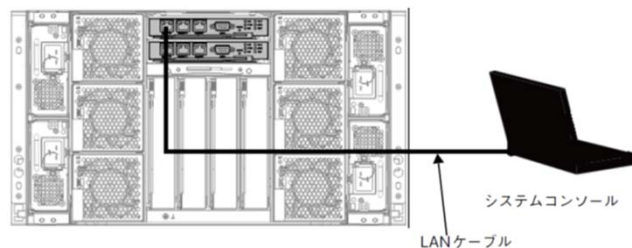
## 添付品のアップロード方法

システム装置添付のユーティリティやドキュメントなどは、サーバシャーシ内蔵フラッシュメモリに格納されています。Webサイトより最新データを手入れた場合、次の手順にしたがい、サーバシャーシ内蔵フラッシュメモリへアップロードしてください。  
手順は、Windowsのシステムコンソールを使用した例を示します。Linuxのシステムコンソールを使用する場合も、同様に実施してください。

### 制限

- Webコンソールメニューからユーザーズガイドを表示するためには、該当するユーザーズガイドがホストマシンの以下のフォルダにある必要があります。アップロードの際にご確認ください。  
iusb/manual/
- お客様がサーバシャーシ内蔵のフラッシュメモリにデータを書き込む場合は、事前にフラッシュメモリのデータのバックアップをお取りください。

1. システム装置背面のマネジメントモジュールMGMT0ポートと、システムコンソールをLANケーブルで接続してください。マネジメントモジュールが2台搭載されている場合は、MSRランプが緑色に点灯している側のマネジメントモジュールに接続してください。



### 制限

HVMモードで使用する場合は外部LANスイッチが必要です。  
詳細は『サーバブレードセットアップガイド』を参照してください。

2. ホストマシンに対してWindowsのFTPセッションを起動します。  
Windowsのデスクトップ画面から、スタート->ファイル名を指定して実行を選択する。  
起動した「ファイル名を指定して実行」画面から、ftp ホストマシン名 を入力して、OKボタンをクリックする。コマンドプロンプト画面が表示出力する。

項目	初期値
ホストマシン名	192.168.0.1

3. ホストマシンに対して登録ログイン名、登録パスワードを入力します。  
表示したコマンドプロンプト画面より、次に示す値を入力してログインします。

項目	初期値
登録ログイン名	administrator
登録パスワード	password

次に入力例を示します。

```
Connected to 192.168.0.1.
220 (vsFTPd 2.3.4)
User (192.168.0.1:(none)): administrator
331 Please specify the password.
Password:password
230 Login successful.
```

4. 転送先ファイルを転送すべきディレクトリへのディレクトリ変更します。  
転送すべきファイルを入れたいホストマシンのディレクトリへ、ディレクトリを変更します。  
iusbディレクトリに移動します。

```
ftp> cd iusb
250 Directory successfully changed.
```

本ディレクトリ以下に、システム装置添付のファイルが格納されています。  
サーバシャーシ内蔵フラッシュメモリ格納ファイルの一覧を参照してください。

### 補足

サーバシャーシ内蔵のフラッシュメモリ格納ファイルの一覧は、Webコンソールメニューの  
[ヘルプ] - [ユーザーズガイド] - 「InternalFlashMemory\_FileList\_JP.pdf」をクリックして  
ください。

5. ファイル転送モードを指定します。  
ファイル転送モードとしてバイナリを指示します。

```
ftp> type binary
200 Type set to I.
```

6. ローカルマシンのドライブ名、ディレクトリパスを指定します。  
ファイルのアップロード元であるローカルマシンのドライブ、ディレクトリを指示します。

次に入力例を示します。(ローカルマシンのルートディレクトリ直下)

```
ftp> lcd c:
```

7. ファイル転送します。  
1ファイルを転送します。

```
ftp> put ファイル名
```

複数ファイルを転送します。ワイルドカード指定が可能です。

```
ftp> mput ファイル名
```

8. ダウンロード完了後、FTPクライアントを終了してください。

```
ftp> bye
```



